

EDGE INNOVATION CHALLENGE COMPETITION 2015 優勝報告

辻理絵子 博士課程2年 国際開発工学専攻・高田研究室 AGL 所属

文科省 EDGE プログラム主催の、EDGE INNOVATION CHALLENGE COMPETITION 2015 に参加し、優勝したので報告させていただきます。

チーム構成

我々のチームは、修士・博士一貫のリーディング大学院に所属する大学院生 5 名です。

安田翔也さん：本学修士2年，知能システム科学専攻

水口佳紀さん：本学修士2年，生命情報専攻

下島洋さん：早稲田大学修士2年，先進理工学専攻

橋香奈さん：東京大学博士2年，病因・病理学専攻

辻理絵子：本学博士1年，国際開発工学専攻

メンバーとの出会いは、1年～1年半程前に行われたリーディング所属学生が集う会議でした。

EDGE INNOVATION CHALLENGE COMPETITION とは

EDGE プログラムとは、文科省による、イノベーション人材育成を目的とした取り組みで、本コンペでは、「科学技術視点」と「人間視点」の2つを持つアイデア創出が求められました。特徴は、評価ポイントにアイデアそのものの良さに加え、アイデア創出のプロセスと今後の実行計画も含まれる、という点です。また、競い合うアイデアのテーマ発表から2週間でアイデアを練らねばならず、限られた時間をいかに効率的に使い本質へ近づくか、チームの戦略も問われました。参加チームは書類選考により約250名の中から選ばれた13チームで、学生は約1割でほとんどが社会人でした。そして、キックオフで発表されたテーマは「働く母親と子供の、より良いコミュニケーションに向けて」です。

アイデア

我々のアイデアは、「OYAKonnect」という情報提供サービスです。具体的には、我が子の保育園での発話から分析した興味・友達マップと保育園での写真、先生からのコメントをママに配信します。このOYAKonnect を見ることで、時間が限られたママでも、手軽に我が子の興味や遊びをお友達との社会関係を絡めて知ることができます。これにより子供との会話の幅を広げ、コミュニケーションを深めることができるシステムです。

我々チームの発想は、メンバー誰一人として子どもを育てた経験がない学生だからこそ新しいアイデアが生み出せるとの考えに基づき、あえて人間視点から出発するのではなく、科学技術視点から出発しました。初めにメンバーの専門分野や最近話題の技術をリストアップし、そこから技術同志の融合ができないか話し合いを重ねました。そうしてでき上がったアイデアを、人間視点でも有用なものとするために、ユーザインタビューを複数ステップ繰り返し、改善を重ねていきました。以上のプロセスにより、科学技術視点・人間視点の2つを合わせ持つアイデアを創出できたと思っています。

コンペを終えて

今回、数あるチームから我々が優勝できたこと本当に嬉しく思います。このアイデア創出には多くの方、特に研究室の仲間からは、ディスカッションを通じて有益な示唆をもらいました。今回ご協力いただいた皆様に改めて感謝申し上げます。製品・サービス開発について興味を持っているので、今後も機会があればチャレンジしたいと思っています！